

第50回 ナノ・バイオテクノロジー 研究会 開催のご案内

主催:名古屋工業大学 山下・出羽・水野研究室

共催:名古屋工業大学研究協力会

最近の生物物理や分子生物学の進展は、単一細胞分子あるいはナノレベルの生体分子が自己組織化により優れた機能をもつことを明らかにしている。このメカニズムをナノレベルで明らかにすることは、科学の問題として興味深いばかりでなく、エネルギー、環境（炭酸ガスの固定化）、食料増産や医療・健康とも関係する重要な課題である。研究会ではナノ・バイオテクノロジーをキーワードで互いの最先端の仕事内容を発表していただく。ナノテクノロジーとバイオテクノロジーの融合分野および創薬を含む機能性材料の開発において、最先端の研究を行っている講師を招き、シーズの創出を行う。

今回は、ケミカルバイオロジー、ナノバイオ分野の研究に取り組んでおられる2名の先生に、招待講演として講師をお願いしました。湯澤賢先生（Lawrence Berkeley National Laboratory, Joint BioEnergy Institute, Project Scientist）は、水野稔久現准教授（本学生命・応用化学専攻）のもとで修士、東京大学菅裕明教授（東京大学理学系研究科化学専攻）のもとで博士の学位を取得後米国に渡り、現在は Jay. D. Keasling（Department of Chemical & Biomolecular Engineering, UC Berkeley）教授のところで酵素進化に基づく合成生物学に取り組んでいる研究者です。一方で吉井達之先生（名古屋工業大学生命・応用化学専攻、助教）は、日本のケミカルバイオロジー研究における第1人者である浜地格教授（京都大学合成・生物化学専攻）の元で学位取得後、米国 Vincent M. Rotello 教授（University of Massachusetts at Amherst）のラボでのポスドクを経て、文部科学省卓越研究員扱いの本学助教として昨年12月より赴任されました。両先生とも本学に関連し、今まさに活躍されている若手研究者ですので、教員だけではなく大学院生、学部生の聴講を広く募ります。

記

日時:2017年4月17日(月) 午後1時00分より3時00分まで

場所:名古屋工業大学 19号館 6階602講義室

プログラム

講演者 湯澤 賢 先生 (Lawrence Berkeley National Laboratory, Joint BioEnergy Institute, Jay D. Keasling lab.)

演題 『PKS リプログラミングを活用した合成生物学』

講演者 吉井 達之 先生 (名古屋工業大学 生命・応用化学専攻 助教、文部科学省卓越研究員)

演題 『機能性超分子ヒドロゲルの設計とその動的応答特性』

申込み〆切: 当日受付

参加費: 無料

参加申込み先: FAX または E-mail でお申込みください。

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町名古屋工業大学

つくり領域 生命・応用化学専攻 山下・出羽研究室 近藤 政晴

TEL 052-735-5160 FAX 052-735-5208

E-mail: kondo.masaharu@nitech.ac.jp

※ 名古屋工業大学への案内地図および建物配置図は、<http://www.nitech.ac.jp/access/index.html> をご覧ください。

申込書

名古屋工業大学 山下・出羽・水野研究室宛

4月17日 の 第50回 ナノ・バイオテクノロジー研究会に参加します。

ご所属:

ご氏名:

メールアドレス:

お電話: